ONKYO®

デジタルホームシアターシステム

DHT-L1

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

<ユーザー登録のご案内>

さまざまな情報提供や、スムーズにサポートを行うため、インターネットによるユーザー登録をおすすめしています。

http://www.onkyo.co.jp/

上記URLにアクセスしてください。

はじめに

接続と使用準備をする

演奏する

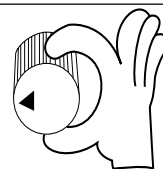
その他

主な特長

■ 最新のドルビー*プロロジックII、ドルビーデジタル、DTS**デコーダー内蔵
■ DVD、ゲーム機、パソコンはもちろん、ビデオやテレビも5.1chサラウンド再生
■ 独自のハイクォリティ設計、OMF※1ダイヤフラム採用サテライトスピーカー、J'DRIVE※2方式サブウーファ（※特許出願中）
■ アンプ、サブウーファーが一体化。コンパクトで簡単接続、リモコン付属で簡単操作
■ 総合出力200W、映画だけでなく音楽、ゲームも臨場感あふれる迫力サウンド
■ 6チャンネルアンプ内蔵
■ デジタル入力端子として光2系統を装備
■ 見やすい表示部
■ オンキヨー独自の7つのリスニングモード
■ サンプリング周波数96kHz入力に対応

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
** 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Surround"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

※1 **独自開発OMFダイヤフラム採用のスピーカーユニット**
スピーカーユニットにはOMF（Onkyo Micro Fiber）ダイヤフラムを採用。独自の素材と成形方法によって、振動板に要求される条件（①軽量②高剛性③適度な内部ロス）を最適にバランスさせ、雑音の低減、トランジェント（過渡特性）を向上させています。また、サブウーファー部、サテライトスピーカーは、音質の良い木製キャビネットを採用しています。
※2 **コンパクトながら自然で迫力ある重低音、J'DRIVE方式（特許出願中）**
ウーファー部はスピーカーユニット前面の容積を限界まで小さくした特殊な構造を採用し、高い圧力で圧縮膨張した空気を開口部から一気に放出する、いわばジェットエンジンのような空気の流れによって、自然で迫力ある重低音を再現しています。

♪ 音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● 本機を使用できるのは日本国内のみです。

● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部、後部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。

● 本機を、押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。

● テーブルクロスをかけたり、布団の上に置いて使用しないでください。

● 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはサブウーファー以外接続しない

● ED-L1の電源コンセントは、SWA-L1専用です。
他の機器は接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源コードをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。また、たて置きにした場合に机やラックの端に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。

- この機器は非常に重いので持ち運びは必ず二人以上で行ってください。けがや腰痛の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因となります。

■ スピーカーコードは安全な場所へ

- スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音がひずんだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。

  磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

⚠注意

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナスーの向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

お手入れについて

キャビネットは、時々シリコンクロスまたは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものなどでふきますと傷がついたり、文字が消えたり、変色したりすることがありますから、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
サランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか、ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

カラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので普通のスピーカーシステムを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）（旧（社）日本電子機械工業会（EIAJ））の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものが置かれていますと本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。
（ご注意）
テレビなどとの近接使用をする場合、テレビから出ている電磁波の影響で本機の電源を切っていてもスピーカーから雑音を発生することがあります。このような場合は、スピーカーをテレビからさらに離してご使用下さい。

取り扱い上のご注意

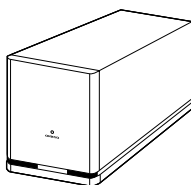
本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

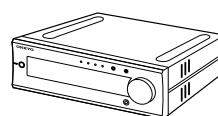
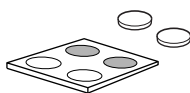
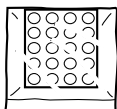
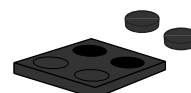
① FMチューナーが同調していないときのノイズ
② テープレコーダーを早送りしたときの音
③ 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
④ アンプが発振しているとき
⑤ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
⑥ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音
⑦ マイク使用時のハウリング

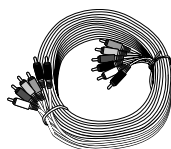
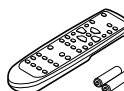
箱を開けたら、まず

付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

- サブウーファー
（SWA-L1）（1）

- サテライトスピーカー
（D-L1）（5）

- AVサラウンドセンター
（ED-L1）（1）

- サブウーファー用コルクスペーサー（一組〈4個〉）

- サテライトスピーカー用コルクスペーサー（一組〈20個〉）

- ED-L1用スペーサー
（一組〈4個〉）

- オーディオ用光デジタルケーブル（1）

- 6チャンネルピンコード（1）

- リモコン（RC-474S）（1）
- 乾電池（単3形）（2）

- スピーカーコード（左右フロント／センター用）2.5m（3）

- スピーカーコード（サラウンド用）8m（2）

- 取扱説明書（本書1）
- 保証書（1）
- ユーザー登録カード（1）

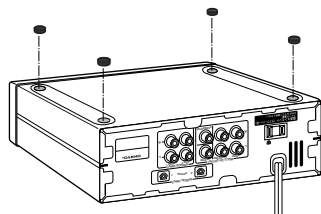
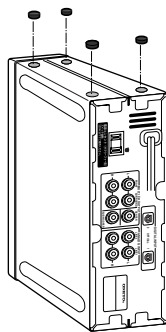
ご注意

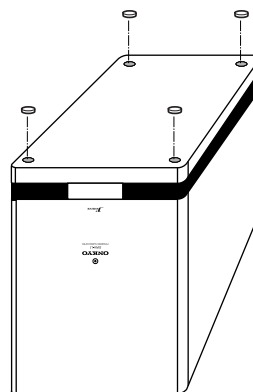
DHT-L1は、サブウーファーSWA-L1、サテライトスピーカーD-L1およびAVサラウンドセンターED-L1の組み合わせで最良の状態になるように設計されております。本体と他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとサテライトスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

スペーサーを貼り付ける

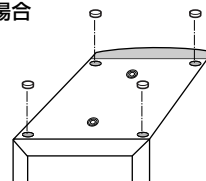
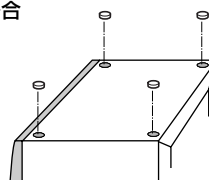
■ **ED-L1用スペーサーについて**

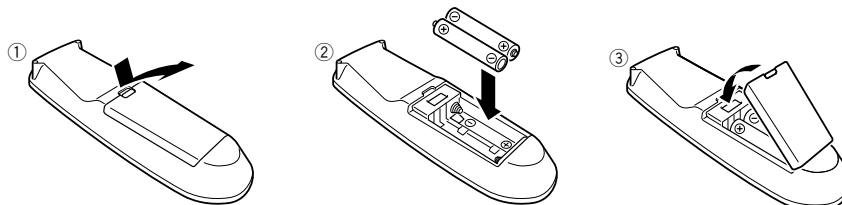
スペーサーを使用することにより、すべりにくく安定して設置することができます。

ED-L1を横置きでお使いになるときは、ED-L1底面のくぼみにED-L1用スペーサーを貼りつけてください。

ED-L1をたて置きでお使いになるときは、ED-L1側面のくぼみにED-L1用スペーサーを貼りつけてください。

■ **サブウーファー用コルクスペーサーについて**

よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。また、コルクスペーサーを使用することにより、すべりにくく安定して設置することができます。

■ **サテライトスピーカー用コルクスペーサーについて**

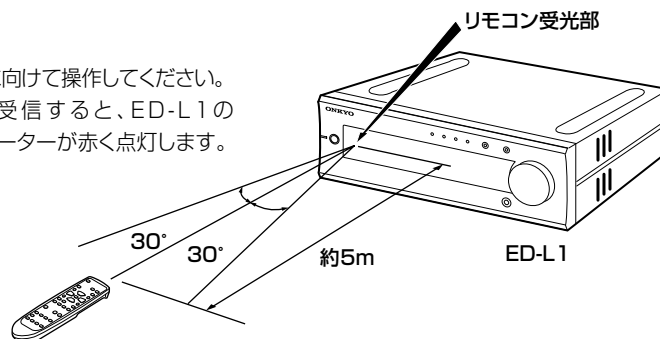
よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。また、コルクスペーサーを使用することにより、すべりにくく安定して設置することができます。

たて置きの場合

横置きの場合

リモコンを準備する

乾電池の入れ方と交換のしかた

ご注意

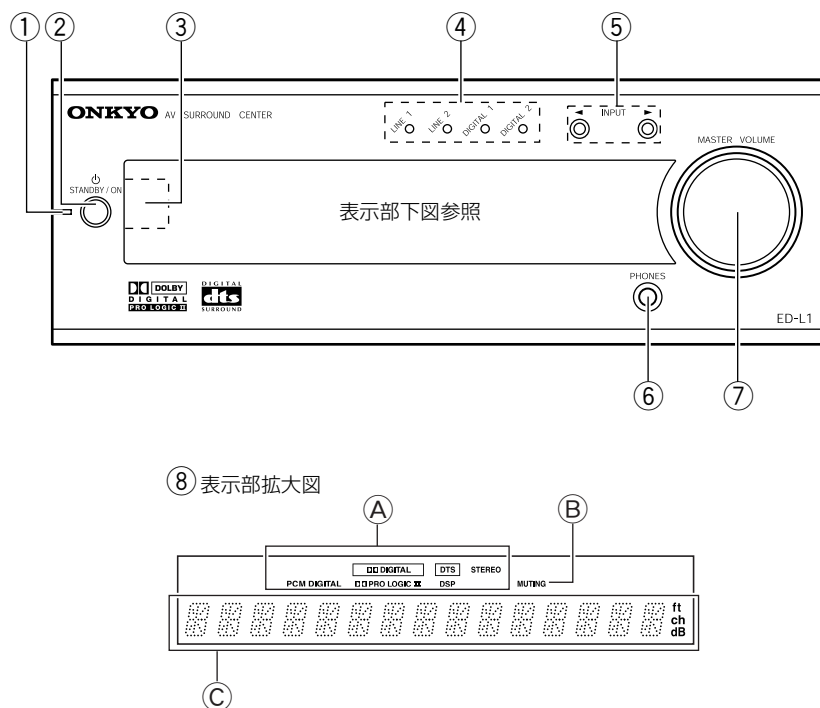
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属のマンガン電池の寿命は約6ヶ月です。電池の交換時には、単3型をご使用ください。

リモコンの使い方

ED-L1のリモコン受光部に向けて操作してください。リモコンからの信号を受信すると、ED-L1のSTANDBY/ONインジケーターが赤く点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

各部の名称と働き

⑧表示部拡大図

[ ]内の数字は、参照ページを示しています。

ED-L1前面パネル

① **STANDBY/ON（スタンバイ／電源オン）インジケーター[22]**
ED-L1が電源オンのときに緑に点灯します。ED-L1がスタンバイ状態のときや、リモコンからの信号を受信したときは赤く点灯します。

② **STANDBY/ON（スタンバイ／電源オン）ボタン[22]**
ED-L1の電源オンとスタンバイ状態を切り換えます。

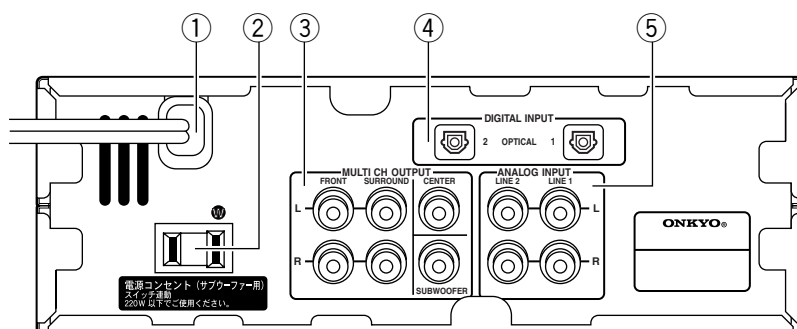
③ **リモコン受光部[11]**

④ **入力インジケーター[25]**
選択されている入力ソースに応じてインジケーターが点灯します。

⑤ **INPUT（入力）◄/►ボタン[25]**
入力ソースを切り換えます。

⑥ **PHONES（ヘッドホン）端子[32]**
ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。音量を下げてから接続してください。ヘッドホンプラグを挿入するとスピーカーからの音は出なくなり、リスニングモードは自動的に「STEREO」に切り換わります。

⑦ **MASTER VOLUME（音量調整）つまみ[24、25]**
音量を調整します。

⑧ **表示部**
Ⓐ リスニングモードあるいはデジタル入力フォーマットインジケーター
Ⓑ ミューティングインジケーター
Ⓒ 多目的表示部

［ ］内の数字は、参照ページを示しています。

ED-L1後面パネル

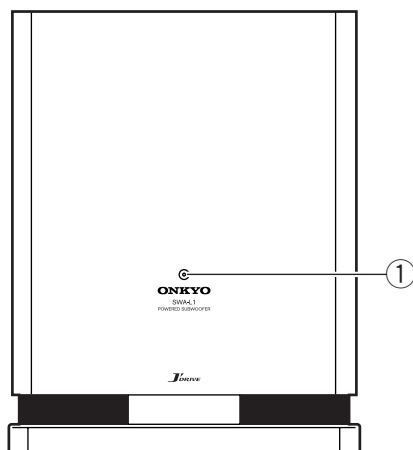
① **電源コード[22]**
壁コンセントに差し込みます。

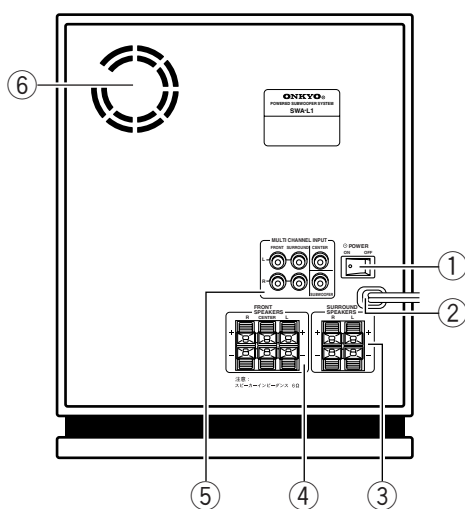
② **電源コンセント（220W以下）[22]**
スイッチ連動です。SWA-L1の電源コードを接続し、SWA-L1のPOWERスイッチをONのままにしておけば、ED-L1のSTANDBY/ONボタンと連動してSWA-L1の電源も入れたり切ったりすることができます。

③ **MULTI CH OUTPUT（マルチチャンネル出力）端子[18]**
付属の6チャンネルピンコードでＳＷＡ-Ｌ１のMULTI CHANNEL INPUT端子と接続します。

④ **DIGITAL INPUT OPTICAL 1および2（デジタル光入力1、2）端子[19-21]**
付属のオーディオ用光デジタルケーブルでDVDプレーヤーやゲーム機、CDプレーヤーなどの光デジタル出力端子と接続します。

⑤ **ANALOG INPUT LINE 1および2（ライン入力1、2）端子[19、21]**
オーディオ用ピンコードでビデオデッキなどのライン出力端子（アナログ）と接続します。

[ ]内の数字は、参照ページを示しています。

SWA-L1前面パネル

① **ON（電源オン）インジケーター[22]**
SWA-L1が電源オンのときに点灯します。

SWA-L1後面パネル

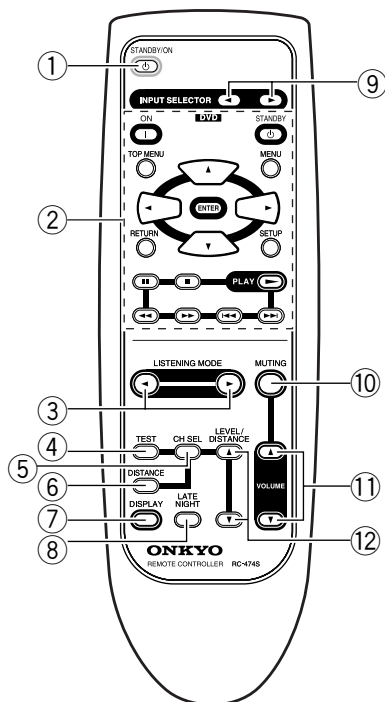
① **POWER（電源）スイッチ[22]**
電源オン／電源オフを切り換えます。

② **電源コード[22]**
ED-L1の電源コンセントに差し込みます。

③ **SURROUND SPEAKERS（サラウンドスピーカー）端子[17]**
サラウンドスピーカー（左/右）を接続します。

④ **FRONT SPEAKERS（フロントスピーカー）端子[17]**
フロントスピーカー（左/センター/右）を接続します。

⑤ **MULTI CHANNEL INPUT（マルチチャンネル入力）端子[18]**
付属の6チャンネルピンコードで、ED-L1のMULTI CH OUTPUT端子と接続します。

⑥ **放熱用ファン**
大入力時にファンが回ります。

[ ]内の数字は、参照ページを示しています。

リモコンRC-474S

① **STANDBY/ON（スタンバイ/電源オン）ボタン[22]**
ED-L1の電源オンとスタンバイ状態を切り換えます。

② **DVD操作ボタン[31]**
オンキヨー製のDVDプレーヤーを操作します。

③ **LISTENING MODE（リスニングモード）◄/►ボタン[28]**
リスニングモードを選びます。

④ **TEST（テストトーン出力）ボタン[24]**
各スピーカーから、テストトーンが出力されます。スピーカーのレベルを合わせるときに使用します。

⑤ **CH SEL（チャンネル切り換え）ボタン[23、24、30]**
距離またはレベルを設定するスピーカーを選びます。

⑥ **DISTANCE（距離設定）ボタン[23]**
聞く位置からスピーカーまでの距離を設定するときに押します。

⑦ **DISPLAY（ディスプレイ）ボタン[29]**
ED-L1の表示部に表示される情報を切り換えます。

⑧ **LATE NIGHT（レイトナイト）ボタン[30]**
小音量で楽しみたいときに、ダイナミックレンジを切り換えることができます。

⑨ **INPUT SELECTOR（入力切り換え）◄/►ボタン[25、28]**
入力ソースを選びます。

⑩ **MUTING（ミューティング）ボタン[26]**
音量を一時的に下げます。

⑪ **VOLUME（音量調整）▲/▼ボタン[24、25]**
▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。

⑫ **LEVEL/DISTANCE（レベル/距離調整）▲/▼ボタン[23、24、30]**
各スピーカーのレベルや距離を設定するとき、数値を上げ下げします。

スピーカーを設置する

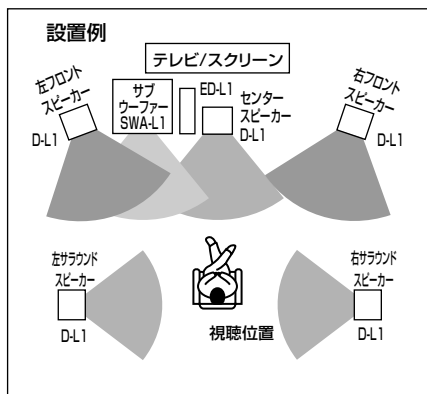
サブウーファー（SWA-L1）は6チャンネルのアンプを内蔵しており、サブウーファーと5つのサテライトスピーカーズ（D-L1）を適切に配置することにより、最適なサラウンド再生を楽しむことができます。
サテライトスピーカーはすべて同じ性能です。3つを左右フロントスピーカーとセンタースピーカーとして、2つを左右サラウンドスピーカーとして使用します。

基本的な設置例と各スピーカーの役割

スピーカーの設置は、実際には部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは各スピーカーの基本的な配置例と各スピーカーの役割を紹介します。

- **左右フロントスピーカーとセンタースピーカー**
  視聴者の前方に配置します。
  — 3つのスピーカーがなるべく同じ高さになるように設置してください。
  — 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。
  センタースピーカーは、左右フロントスピーカーの音源効果や、音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。

- **左右サラウンドスピーカー**
  視聴者の横または後ろに配置します。
  音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作りだして臨場感を高めます。

- **サブウーファー**
  フロントスピーカーの近くに配置します。
  迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。

■ **サテライトスピーカーを固定するには**
5つのサテライトスピーカーには、市販されているスタンドや金具を使用できるネジ穴がつけられています。底面にはピッチ60mmでM5用ネジ穴が2個、背面にはM5用ネジ穴1個を設けてあります。取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。

スタンドや金具をご使用になるときは、ネジ長に注意してください。有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

ご注意

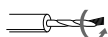
ED-L1をたて置きにしたり、サテライトスピーカーを設置する際には、机やラックの端に置かないようにしてください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

スピーカーを接続する

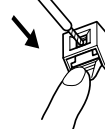
接続の前に

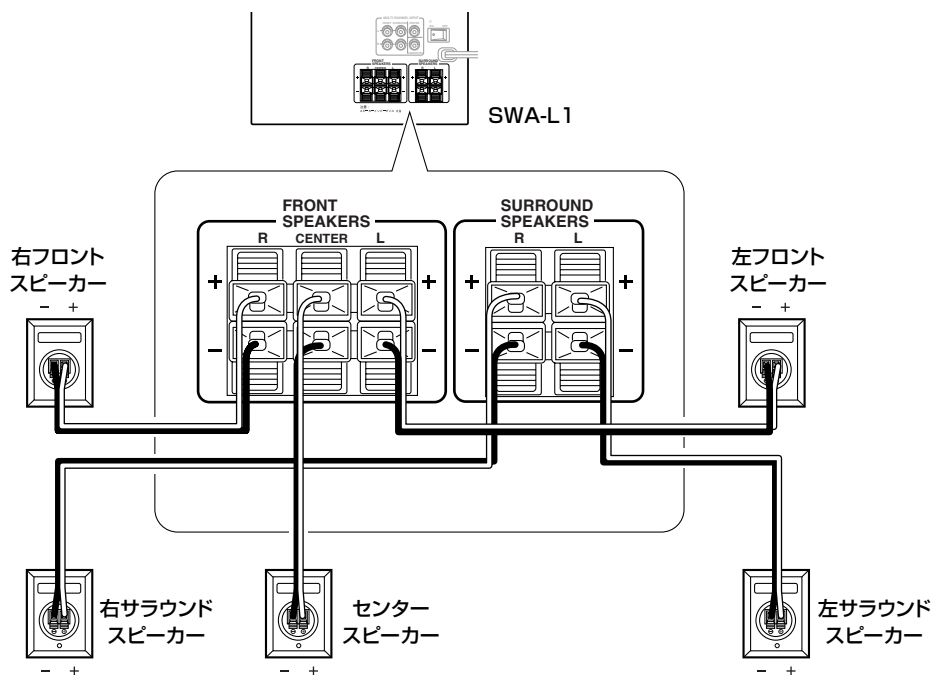
付属のスピーカーコードの準備をします。

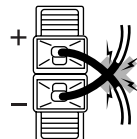
① スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。

② しん線をよじります。

スピーカー端子への接続方法

① レバーを押します。

② しん線を穴の中に入れます。

③ レバーをはなします。

左右フロント、センター、サラウンドスピーカーの接続図

ご注意

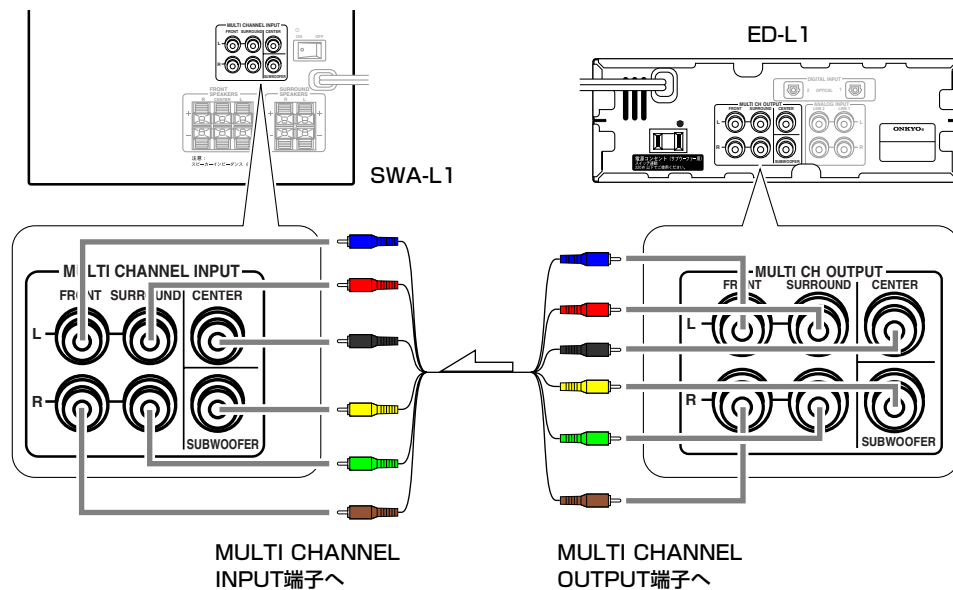
- プラス（+）とマイナス（−）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- 付属のスピーカーコードの白線の入っている方をプラス（+）側に接続してください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはL/Rを絶対にショートさせないでください。

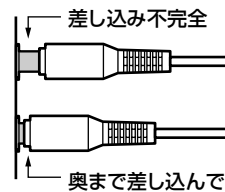
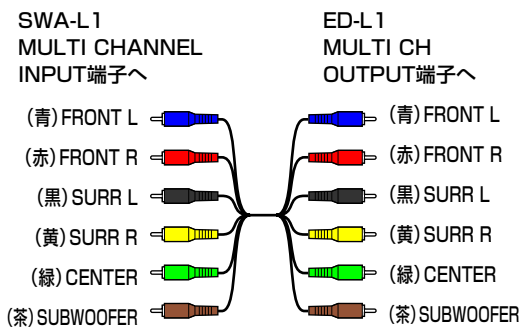
ED-L1（AVサラウンドセンター）とSWA-L1（サブウーファー）を接続する

付属の6チャンネルピンコードを使ってED-L1のMULTI CH OUTPUT端子とSWA-L1のMULTI CHANNEL INPUT端子を接続します。

電源コードはまだ接続しないでください。

：信号の流れ

ご注意

- 6チャンネルピンコードは、次のように接続してください。

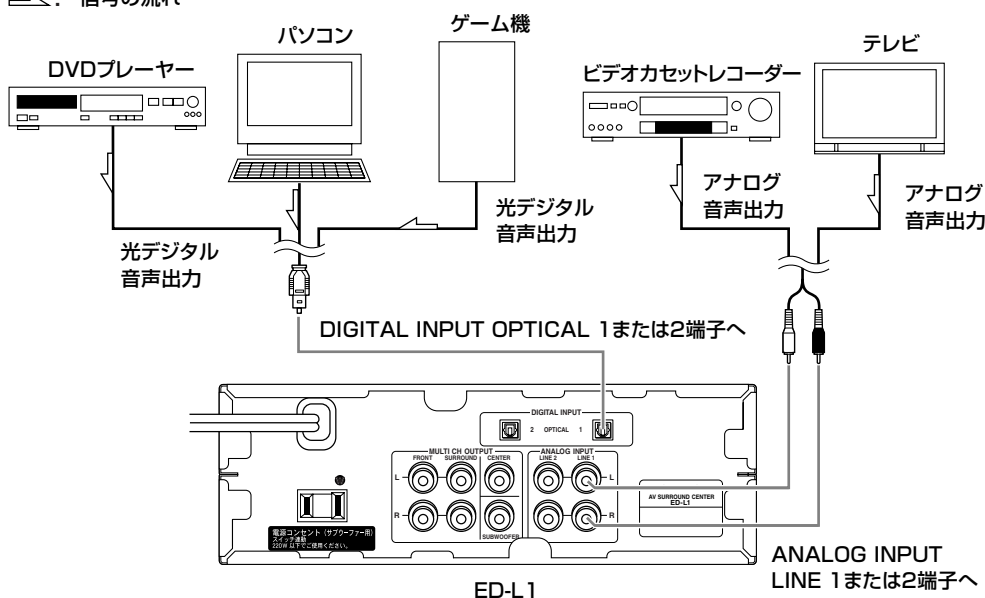
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

- 6チャンネルピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

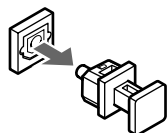
オーディオ機器やゲーム機を接続する

本機には2系統の光デジタル音声入力端子と2系統のアナログのライン入力端子があり、最大で4種類の音声機器やゲーム機器を接続することができます。

- ドルビーデジタル、DTSソフトなどのデジタル信号を再生するためには、DIGITAL INPUT OPTICAL 1または2端子への接続が必要です。
- パソコンで5.1チャンネルサラウンドを楽しむには、DVD-ROMドライブのほかに、光デジタル出力に対応したパソコンや音源ボードが必要です。詳しくは、各機器に付属の説明書をご覧ください。

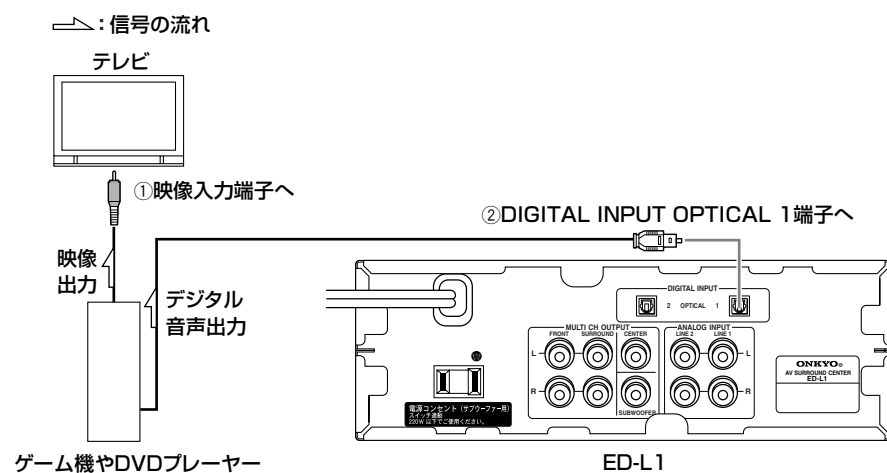
電源コードはまだ接続しないでください。

オーディオ機器・ゲーム機の接続例

ご注意

- DIGITAL INPUT OPTICAL端子には、保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップは必ずもとどおりに取り付けておいてください。

- 音声用ピンコードは、次のように接続してください。

テレビを含む接続例

ED-L1に接続できるのは、音声出力端子のみです。それぞれの機器の映像出力端子は、直接テレビと接続する必要があります。

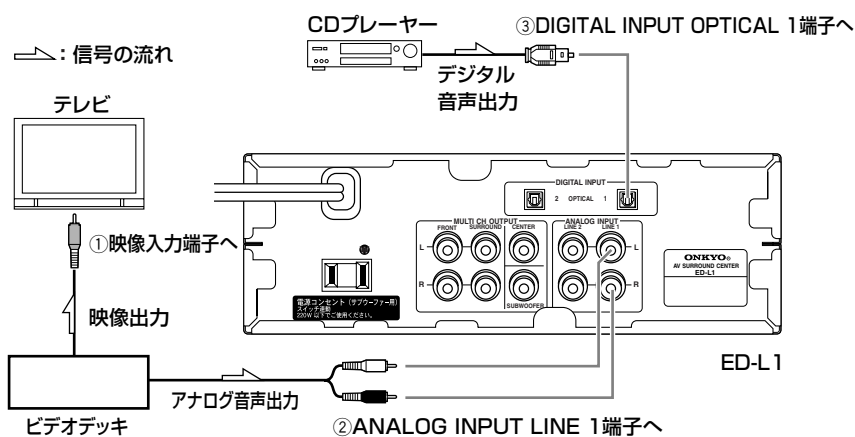
■ ゲーム機やDVDプレーヤーのみを接続する場合

① ゲーム機やDVDプレーヤーの映像出力端子とテレビの映像入力端子を接続します。
② ゲーム機やDVDプレーヤーの音声出力端子とED-L1のDIGITAL INPUT OPTICAL 1端子を接続します。

この接続では、ゲーム機やDVDプレーヤーでソフトを再生し、ED-L1のINPUT ◄/►ボタンを押して接続した機器を入力ソースに選びます。

オーディオ機器やゲーム機を接続する

テレビを含む接続例

ED-L1に接続できるのは、音声出力端子のみです。それぞれの機器の映像出力端子は、直接テレビと接続する必要があります。

■ ビデオデッキとCDプレーヤーを同時に接続する場合

① ビデオデッキの映像出力端子とテレビの映像入力端子を接続します。
② ビデオデッキの音声出力端子とED-L1のANALOG INPUT LINE 1端子を接続します。
③ CDプレーヤーの音声出力端子とED-L1のDIGITAL INPUT OPTICAL 1端子を接続します。

ED-L1のINPUT ◄/►ボタンを押して入力ソースを切り換えるだけで、ビデオデッキとCDプレーヤーを使い分けることができます。

ゲーム機やビデオデッキの音声出力端子とテレビの音声入力端子を接続しているときやビデオ内蔵テレビをお使いのときは

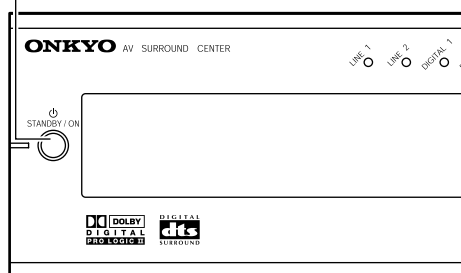
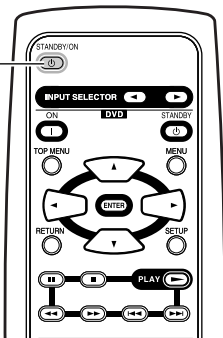
テレビの音声出力端子とED-L1のANALOG INPUT LINE 1または2端子を接続してください。

電源を入れる

接続する前に

電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。

ご注意

SWA-L1はPOWER（主電源）スイッチがONの状態で工場出荷されていますので、SWA-L1の電源コードのプラグをED-L1の電源コンセントに差し込み、ED-L1の電源コードのプラグを壁のコンセントに差し込むと右記の「電源を入れる」の手順3と同じ状態になります。

4

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの片側に目印線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差しこんでください。電源コンセントに極性の区別が無い場合はどちらを接続してもかまいません。

1 SWA-L1の電源コードをED-L1の電源コンセントにつなぐ

2 ED-L1の電源コードを壁のコンセントにつなぐ

ED-L1のSTANDBY/ONインジケーターが赤く点灯します。

3 SWA-L1の後面パネルのPOWER（主電源）スイッチをONにする

4 ED-L1の前面パネルまたはリモコンのSTANDBY/ON（スタンバイ/電源オン）ボタンを押す

ED-L1のSTANDBY/ONインジケーターが緑に点灯し、表示部が点灯します。
SWA-L1のONインジケーターが点灯します。

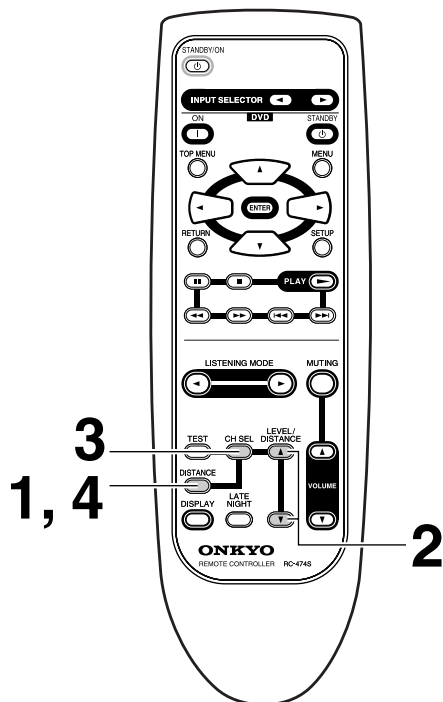
メモリー保持について

ED-L1には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したレベル設定（☞24ページ）などを停電時などに保護するためのものです。2週間以上ED-L1の電源コードを抜いた状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

誤動作するときは

ED-L1はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などの影響を受けて誤動作するときがあります。このようなときは、電源コードを壁コンセントから一度抜き、5秒以上たってからつなぎなおしてください。

スピーカーまでの距離を設定する

操作の前に、設置したスピーカーから聞く位置までの距離を設定します。
スピーカーの設置については、「スピーカーを設置する」（☞16ページ）をご覧ください。

ご注意

- センタースピーカーは、左右フロントスピーカーより1.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。
- 左右サラウンドスピーカーは、左右フロントスピーカーより4.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。
- ヘッドホンを接続している時は設定できません。

1 リモコンのDISTANCEボタンを押す

ED-L1の表示部にフロントスピーカーまでの距離が表示されます。

FRONT =3.0M/10ft

2 LEVEL/DISTANCE▲/▼ボタンを押して、実際の距離に近い数値に設定する

▲ボタンを押すと数値が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
0.3m〜9.0mの範囲、0.3m単位で設定できます。

3 CH SELボタンを押してスピーカーを切り換え、すべてのスピーカーまでの距離を設定する

ボタンを押すたびに、スピーカーの表示が次のように切り換わります。設定方法は、手順2と同じです。

FRONT（左右フロントスピーカー）
↓
CENTER（センタースピーカー）
↓
SURR（左右サラウンドスピーカー）
↓
（FRONTに戻る）

4 DISTANCEボタンを押す

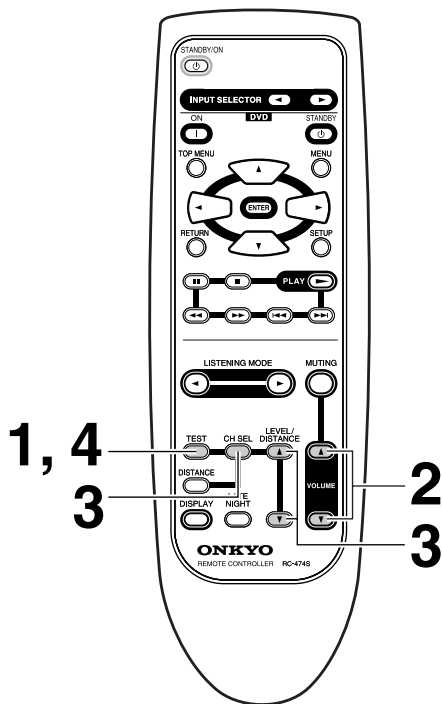
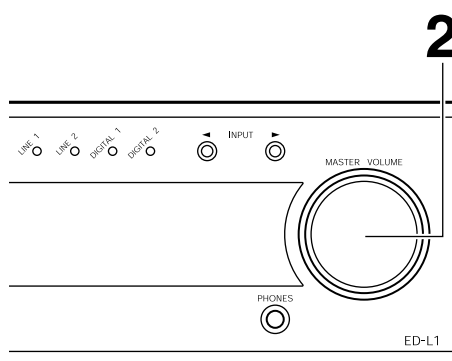
設定したスピーカーの距離が記憶され、通常の表示に戻ります。

各スピーカーの音量レベルを設定する

各スピーカーからの音量が同じに聞こえるように、それぞれの音量レベルを設定します。

2

ご注意

- テスト音をいつも聞く音量よりも大きくして調整した場合は、手順3が終了した後にVOLUME ▲/▼ボタンで元の音量に戻しておいてください。
- ヘッドホンを接続している時は設定できません。

1 リモコンのTESTボタンを押す

左のフロントスピーカーから「ザー」というテスト音が出ます。

2 音量を調整する

本体のMASTER VOLUMEつまみまたはリモコンのVOLUME ▲/▼ ボタンでいつも聞く音量にしてください。その後、下記の順で各スピーカーからテスト音がでます。

LEFT（左フロントスピーカー）
↓
CENTER（センタースピーカー）
↓
RIGHT（右フロントスピーカー）
↓
SURR RIGHT（右サラウンドスピーカー）
↓
SURR LEFT（左サラウンドスピーカー）
↓
SUBWOOFER（パワードサブウーファー）
↓
LEFT（左フロントスピーカー）に戻る

テスト音は、TESTボタンを押したあと、何も操作しないでいると、自動的に次のチャンネルに移り、2秒ずつテスト音を出力します。10回くりかえして止まります。

3 CH SELボタンを押してスピーカーを切り換え、LEVEL/DISTANCE ▲/▼ボタンを押して、聞く位置から各スピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
－12dB～＋12dBの範囲で設定できます。
（サブウーファーは、－30dB～＋12dB）

CENTER 0 dB

4 TESTボタンを押す

設定したスピーカーの音量レベルが記憶され、通常の表示に戻ります。

機器を選んで演奏する

1 ED-L1のINPUT ◄/►ボタンまたはリモコンのINPUT SELECTOR ◄/►ボタンを押して、入力ソースを選ぶ

DIG1: DIGITAL INPUT OPTICAL 1端子に接続された機器
DIG2: DIGITAL INPUT OPTICAL 2端子に接続された機器
LINE1: ANALOG INPUT LINE 1端子に接続された機器
LINE2: ANALOG INPUT LINE 2端子に接続された機器

選んだ入力ソースと音量もしくは現在選ばれているリスニングモードがED-L1の表示部に表示されます。

リスニングモードの場合

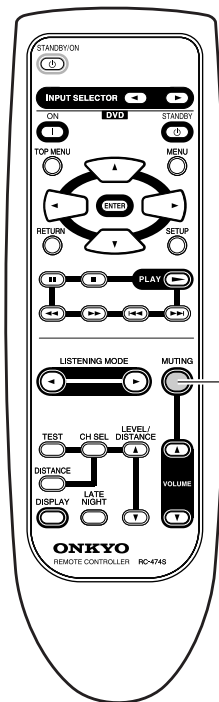
DIG1 DOLBY D

選んだ入力ソースに応じてED-L1の入力インジケーターが点灯します。

2 選んだ機器の演奏を始める

3 ED-L1前面パネルのMASTER VOLUMEつまみまたはリモコンのVOLUME ▲/▼ボタンで音量を調整する

MASTER VOLUMEつまみは、右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。
リモコンのVOLUMEボタンは、▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。

音を一時的に消す（ミューティング機能）

音楽を聞いているときに電話がかかってくるなどして、すぐに音を小さくしたいときに役立ちます。

MUTINGボタンを押す

表示部のMUTINGインジケーターが点滅し、一時的に音量を下げます。

MUTING

もう一度押すと、元の音量に戻ります。

ご注意

スタンバイ状態にすると、次に電源を入れたとき、ミューティング機能は解除されています。

リスニングモードを楽しむ前に

本機には、以下のリスニングモードがあります。

STEREO（ステレオ）

すべての音声が左右フロントスピーカーから出力されます。

DOLBY DIGITAL/DTS（Digital Theater System）

（ドルビー デジタル／ディーティーエス（デジタル シアター システム））

5チャンネル（左右フロント、センター、左右サラウンド）と、低域効果音を記録したLFE（Low Frequency Effect）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録·再生する5.1chのデジタルサラウンドフォーマットです。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。DOLBY DIGITALは、DOLBY DIGITALマークのついたDVDビデオなどの再生時に楽しむことができます。DTSはdtsマークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。

DOLBY PRO LOGIC II

（ドルビー プロロジック ツー）

従来の4チャンネル（左右フロント、センター、モノラルのサラウンドチャンネル）のプロロジックサラウンドと5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドの橋渡しをする、次世代の5チャンネルサラウンド方式です。映画に最適なMovie（ムービー）モードと音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。DOLBY PRO LOGIC IIは、DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードは CDなどのステレオ音楽にも適しています。

オンキヨー独自のリスニングモード

ドルビーデジタルまたはDTS以外のソースでは、オンキヨー独自のリスニングモードを楽しむことができます。

GAME ACT（ゲームアクション）: シューティング／アクションゲーム用。迫力のあるサラウンド音声になります。

GAME SIM（ゲームシミュレーション）: シミュレーションゲーム用。臨場感を高めます。

GAME ADV（ゲームアドベンチャー）: ロールプレイングゲーム用。会話の雰囲気を重視します。

POPS/ROCK（ポップス/ロック）: ポピュラーミュージック用。ライブの迫力を出します。

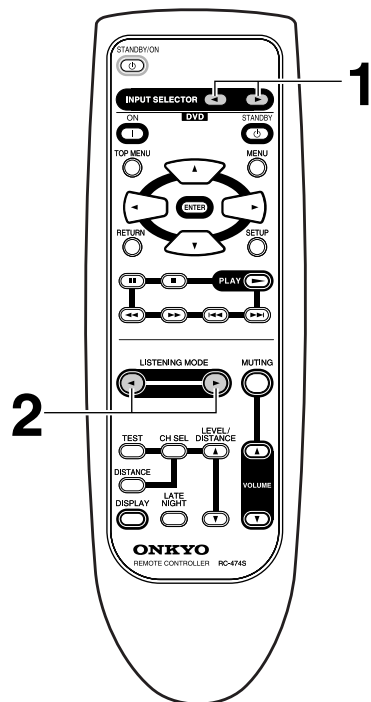
MUSICAL（ミュージカル）: クラシックやミュージカルの演奏用。自然な広がりを重視します。（センタースピーカーの音は出ません。）

TV FAN（テレビ ファン）: スタジオ収録のテレビ番組用。全体的なサラウンド感とセリフの明瞭度を高めています。

ALL CH ST（オールチャンネル ステレオ）: BGMとして音楽をかけるときのモード。フロントとサラウンドチャンネルの両方で、ステレオイメージをつくり出します。

DTS についてのご注意

- DTS対応のCDやLDをANALOG INPUT LINE 1/2端子に接続し、入力ソースをLINE1/2にして再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、アンプやスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTSソースを再生するときは必ずDIGITAL INPUT OPTICAL 1/2端子に接続し、入力ソースをDIG1/2にして再生してください。
- DTSソースを再生している時にプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機では正しいDTSデータとみなすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生することがあります。

リスニングモードを楽しむ

1 リモコンのINPUT SELECTOR ◄/►ボタンを押して、入力ソースを選ぶ

ED-L1の表示部に選んだ入力ソースと現在選ばれているリスニングモードが表示されます。

入力ソースにＤＩＧ１を選び､リスニングモードにDOLBY DIGITALが選ばれている場合

DIG1 DOLBY D

選んだ入力ソース　　リスニングモード

2 LISTENING MODE ◄/►ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

左右のボタンを押すたびに､モードが切り換わります。選べるモードは入力信号の種類によって異なります。（下の表をご覧ください。）

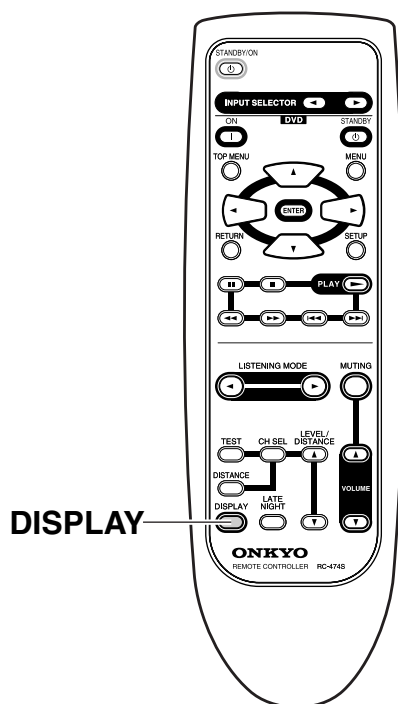
3 選んだソースを演奏する

［お知らせ］

入力ソースが96kHz/24bitの時は､リスニングモードは「STEREO」のみとなります。

入力ソースの信号（意味） フォーマット*	ANALOG/PCM (アナログ/PCM)	DOLBY D (ドルビーデジタル)		DTS
		2/0以外	2/0	
ソースとなるソフト ／ リスニングモード	カセット、CD レコード、チューナー	DVDビデオ		DVDビデオ LD、CD
STEREO	●	●	●	●
DOLBY D (DOLBY DIGITAL)		●		
DTS				●
PL II MOVIE（PRO LOGIC II Movie)	●		●	
PL II MUSIC（PRO LOGIC II Music)	●		●	
GAME ACT	●			
GAME SIM	●			
GAME ADV	●			
POPS/ROCK	●			
MUSICAL	●			
TV FAN	●			
ALL CH ST	●			

＊ フォーマットについては､次ページをご参照ください。

表示を確認する

リモコンのDISPLAYボタンを押すたびに、表示部が次のように切り換わります。

音声信号がアナログの時:
入力ソースと音量→入力ソースとリスニングモード

音声信号がPCMの時:
入力ソースと音量→PCMと周波数(5秒間)→入力ソースとリスニングモード

音声信号がDOLBY DIGITAL、DTSの時:
入力ソースと音量→DDまたはDTSとそのフォーマット(5秒間)→入力ソースとリスニングモード

表示部に音声信号のフォーマットが表示されたときの意味は次のようになっています。

入力ソースの信号がDOLBY DIGITAL、DTSの場合

入力ソースの信号

a. **フロントチャンネルの数を表します。**
 3: 左フロント、センター、右フロントの3チャンネル
 2: 左フロント、右フロントの2チャンネル
 1: モノラル(1チャンネル)

b. **サラウンドチャンネルの数を表します。**
 2: 左サラウンド、右サラウンドの2チャンネル
 1: モノラル(1チャンネル)
 0: なし

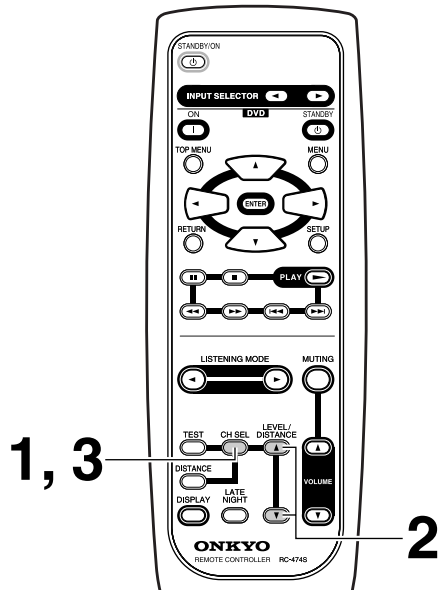
c. **LFE(低域効果音:Low Frequency Effect)のありなしを表します。**
 .1: LFE あり
 空白: LFEなし

例えば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立してエンコードされたソースであることを表しています。

入力ソースの信号がPCMの場合

PCM FS = 48 K

入力ソースの信号 **サンプリング周波数**

一時的に各スピーカーレベルを調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルを調整することができます。

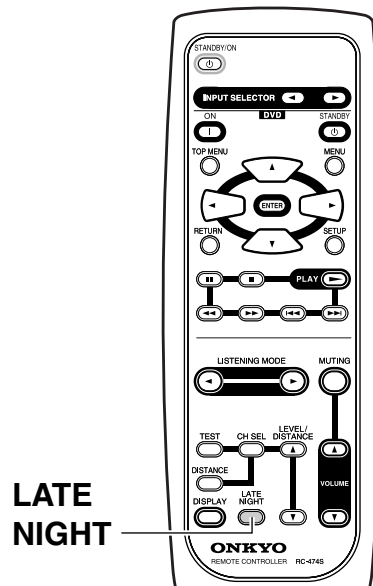
1 再生中にリモコンのCH SELボタンを押して、スピーカーを選ぶ

2 LEVEL/DISTANCE ▲/▼ボタンで、各スピーカーの音量を調整する

▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。
−12dB〜+12dBの範囲で設定できます。（サブウーファーは、−30dB〜+12dB）

3 CH SELボタンを押す

サブウーファーを選んでいるときに、CH SELボタンを押すと、通常の表示に戻ります。この設定は、ED-L1をスタンバイ状態にすると解除されます。
CH SELのかわりにTESTボタンを押すと、テストトーンで調整したレベルとして保存されます。

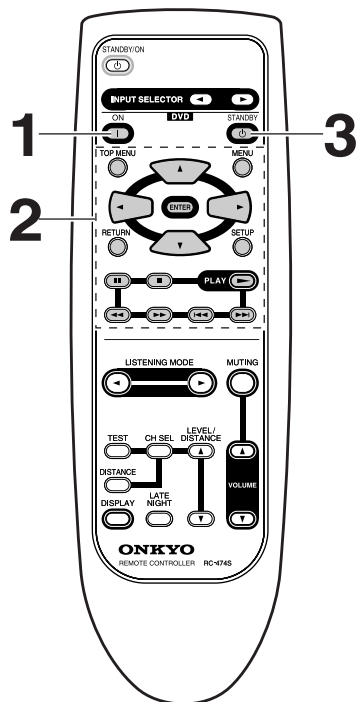
レイトナイト機能（DOLBY DIGITALソフト再生時のみ）

ドルビーデジタル録音されたソフトを演奏するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。

LATE NIGHTボタンを押す

押すたびに、2段階のレイトナイトモード（HIGH/LOW）とOFFを切り換えることができます。HIGHにするとLOWよりさらに効果があります。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイトの効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっていますので、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。
- レイトナイト機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

リモコンで他の機器を操作する

リモコン（RC-474S）を使ってオンキヨー製のDVDプレーヤーを操作することができます。リモコンをDVDプレーヤーのリモコン受光部に向けて操作してください。

1 ONボタンを押してDVDプレーヤーの電源を入れる

2 各操作ボタンを押す

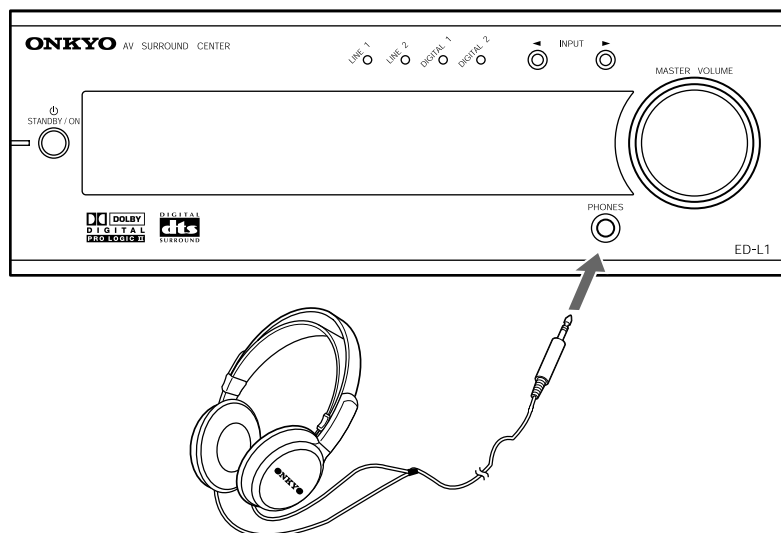
DVD操作ボタン

►：再生を始めます。
■：再生を止めます。
►►：正方向にサーチ（早送り）します。
◄◄：逆方向にサーチ（早戻し）します。
II：再生を一時停止します。
►►I：1つ先のチャプター／トラックの先頭から再生します。
I◄◄：現在のチャプター／トラックの先頭から再生します。

DVD OSD操作ボタン

TOP MENU：DVDのディスクに記録されているトップメニューを表示します。
MENU：DVDのディスクに記録されているメニューを表示します。
RETURN：1つ前のメニュー画面に戻ります。
SETUP：設定画面を表示します。
◄/►/▲/▼：画面に表示されたメニューを選択します。
ENTER：選択内容を決定します。

3 STANDBYボタンを押してDVDプレーヤーをスタンバイ状態にする

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンのステレオミニプラグをED-L1のPHONES端子に接続する

ご注意

- ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音声は出力されません。
- 音声は自動的にステレオ音声になります。（リスニングモードが「STEREO」になります。☞27ページ）
  ヘッドホンを抜くと、接続前のリスニングモードに戻ります。

故障?と思ったら

ホームシアターシステムが正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処理をしても直らないとき、これ以外の症状のときは、電源コードをコンセントから抜いて「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（DHT-L1）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

症状	原因	対応の仕方
電源が入らない	電源コードがコンセントから抜けている。	電源コードをコンセントに差し込んでください。（☞22 ページ）
	外部ノイズが ED-L1 内部のマイコンに影響した。	電源プラグを一度コンセントから抜き、5 秒以上たってから再度コンセントに差し込んでください。（☞22 ページ）
	SWA-L1 内部のヒューズが切れた。	お買い上げ店もしくは当社サービスステーションにご連絡ください。
電源は入るが、音が出ない。	SWA-L1 後面の POWER（主電源）スイッチが OFF（オフ）になっている。	ON（オン）にしてください。（☞22 ページ）
	ミューティング機能がはたらいている。	リモコンの MUTING ボタンを押してミューティング機能を解除してください。（☞26 ページ）
	ピンコードやスピーカーコードの接続が正しくない。	もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。（☞17 ～ 21 ページ）
	マイコンが誤作動している。	電源プラグを一度コンセントから抜き、5 秒以上たってから再度コンセントに差し込んでください。（☞22 ページ）
	再生している機器が入力ソースとして選ばれていない。	入力ソースを再生している機器にしてください。（☞25 ページ）
リモコン操作ができない。	• リモコンに電池が入っていない。 • 電池の寿命がなくなっている。	• 乾電池を正しく入れてください。 • 新しい乾電池と交換してください。（☞11 ページ）
	• リモコン受光部が障害物でふさがれている。	• 障害物を取り除いてください。

ED-L1はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5秒後に改めて電源プラグを入れてください。

※ マイコンのリセットについて
登録したレベル設定などをすべて初期（工場出荷時の設定内容）化したいときは、スタンバイ状態のときにED-L1のSTANDBY/ONボタンを押したままリモコンのLATE NIGHTボタンを押してください。ED-L1の表示部に「CLEAR」と表示され、初期化されると同時にスタンバイ状態になります。

主な仕様

■ ED-L1（デコーダー）

入力	
デジタル１／２	光（OPTICAL）
アナログ１／２	RCA L/R（200 mV/50 k Ω）
出力	ステレオ時：RCA L/R（2 V/800 Ω　VOLUME MAX時）
周波数特性	
フロント、サラウンド部	150 Hz － 20 kHz、＋1/－3 dB（STEREOモード）
スーパーウーファー部	20 Hz － 150 Hz、＋1/－3 dB（STEREOモード）
ミュート	－60 dB
一般	
電源	AC100V、50/60 Hz
消費電力	16 W（電気用品安全法技術基準）
外形寸法(幅×高さ×奥行き)	205 mm × 70 mm × 235 mm
質量	2.4 kg

■ SWA-L1（アンプ、サブウーファー）

入力	RCA L/R/C/SL/SR/サブウーファー（500 mV/50 k Ω）
アンプ部	
定格出力（各チャンネル駆動時）	
フロント、サラウンド部	30 W × 5（1 kHz、6 Ω /EIAJ）
スーパーウーファー部	50 W（100 Hz、12 Ω /EIAJ）
全高調波歪み率	0.1%（出力５ W）
SN比	100 dB（STEREO時、IHF A 0.5 V入力）
スピーカー部	
形式	Jドライブ方式　20 cm コーン
一般	
電源	AC100V、50/60 Hz
消費電力	107 W（電気用品安全法技術基準）
外形寸法(幅×高さ×奥行き)	251 mm × 316 mm × 408 mm
質量	14.1 kg
その他	防磁設計（EIAJ）

■ D-L1（サテライトスピーカー）

形式	8 cm OMFコーン（1ヶにつき１本使用）
外形寸法(幅×高さ×奥行き)	85 mm × 120 mm × 112 mm
質量	各0.7 kg
その他	防磁設計（EIAJ）

性能および外観は、性能向上のため予告なしに変更することがります。

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30〜17:30　(土日祝、弊社休日除く) ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e-mail：ホームシアター/オーディオ製品→customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL：ナビダイヤル0570-01-8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または072-831-8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX：072-831-8124　〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com

修 理 窓 口　修理のご依頼は取扱説明書の「故障？と思ったら」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

パソコン用スピーカー以外のマルチメディア製品は、

マルチメディアサポートセンター　TEL.072-831-7305　FAX.072-831-8124
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

ホームシアター/オーディオ製品とパソコン用スピーカーは、

北海道地区
札幌サービスステーション　TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619
〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北28条ビル

青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区
仙台サービスステーション　TEL 022-297-0571　FAX　022-257-7330
〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル 1F

茨城・栃木地区
宇都宮サービスステーション　TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308
〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7

群馬・埼玉・新潟地区
大宮サービスステーション　TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137
〒330-0034　埼玉県さいたま市土呂町2-29-2　高安ビル 1F

千葉・東京（23区）地区
東京サービスセンター　TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124
〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル

東京（23区を除く）・山梨・長野地区
八王子サービスステーション　TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312
〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地

神奈川地区
横浜サービスステーション　TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603
〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F

岐阜・静岡・愛知・三重地区
名古屋サービスステーション　TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331
〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番

富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区
大阪サービスセンター　TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604
〒552-0013　大阪市港区福崎2丁目1番地49号

鳥取・島根・岡山・広島・山口（下関を除く）地区
広島サービスステーション　TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571
〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28

徳島・香川・愛媛・高知地区
高松サービスステーション　TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672
〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F

山口（下関）・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区
福岡サービスステーション　TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358
〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

2001年6月現在　お客様相談窓口、修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、ただちに電源プラグを抜いてから、修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは
「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(DHT-L1)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しく、お買い上げ店または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入された時にご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日　:　　年　　月　　日
ご購入店名　:
Tel.　　(　　)
メモ:

本社／大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.onkyo.co.jp/

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先:
お買い上げの販売店もしくは「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」に記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。

● 東京サービスセンター ☎03(3861)8121　　● 大阪サービスセンター ☎06(6576)7620

SN 29343260　W0109-1